

1.1 人文社会科学系の情報探索

研究とは既存の理論の検証や、新たな理論・視点の創造をしていくものですが、論の導き出し方は、理系・文系で大きく異なります。理科系の研究においては、ほとんどの場合実験の結果によって論証していきますが、人文社会科学系の研究においては何によって論証するのでしょうか？

この節では人文社会科学系の研究プロセスを概観しつつ、情報探索との関係について触れていきます。

1.1.1 研究のプロセスと情報探索

一般に研究のプロセスは以下のように整理できます。

- Process 1 テーマを特定する
- Process 2 テーマに関する基本情報を調べる
- Process 3 先行・最新の研究動向を調べる
- Process 4 原資料を調査・分析する
- Process 5 論のまとめと公表（論文・学会発表等）

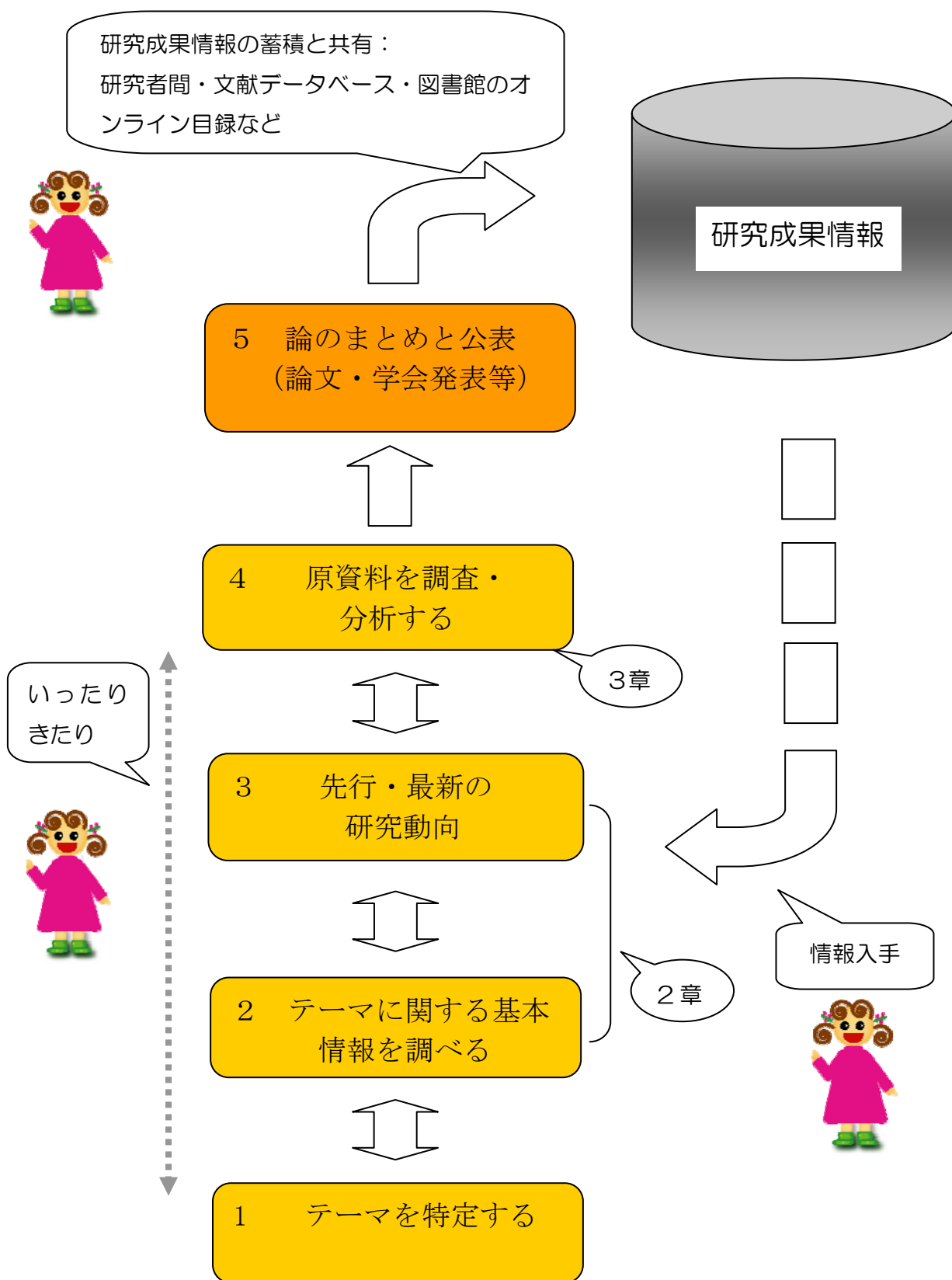
このプロセスはもちろん1から5に向かった一定方向の流れではなく、各プロセスの間を反復しつつ研究をまとめ上げて行きます。最終的に公表（Process 5）した後は、研究情報としてデータベースなどに蓄積され、他の人が自分の研究を参照するようになります。

Process 5が研究の最終段階となりますが、そのためには、1から4のプロセスの地道かつ丁寧な積み上げが必要です。それでは、それぞれのプロセスの内容を概説していきましょう。

(1) Process1 テーマを特定する

テーマを特定する切り口は、「〇〇とされていることは本当なのか」「〇〇を解決するにはどうしたらいいのか」等、人の興味や問題意識の在り方だけ多種多様です。

テーマを選ぶにあたっては、初めから明確であることはほとんど無いでしょう。当初は漠然としていたとしても、まず自分の関心の向いた事柄を「〇〇」と言葉に



図表 1-1 研究プロセス概観

し、キーワードをあげることから始めてみて下さい。そして、新聞や雑誌、入門書、百科事典そしてインターネット上の情報などの様々な資料や情報にアクセスする中で、より輪郭をはっきりとさせ、焦点を絞り込んでいきましょう。色々な情報に対してアンテナを張る事が大切です。

(2) Process2 テーマに関する基本情報を調べる

テーマがはっきりとしてきたら、そのテーマに関する基本情報（一般的な定義や説明）を調べます。

基本情報を調べるためには、手始めとしては**百科事典類**がありますが、**各分野に特化された専門事典や入門書**も調べましょう。これらの資料に記載されている内容は、これまでの研究の結果、その学問領域で最大限にコンセンサスを得られていることです。その背後には膨大な先行研究の積み重ねがあるので、それを最初に確認することは、テーマの方向性や論点を更に明瞭化して行く手助けともなります。

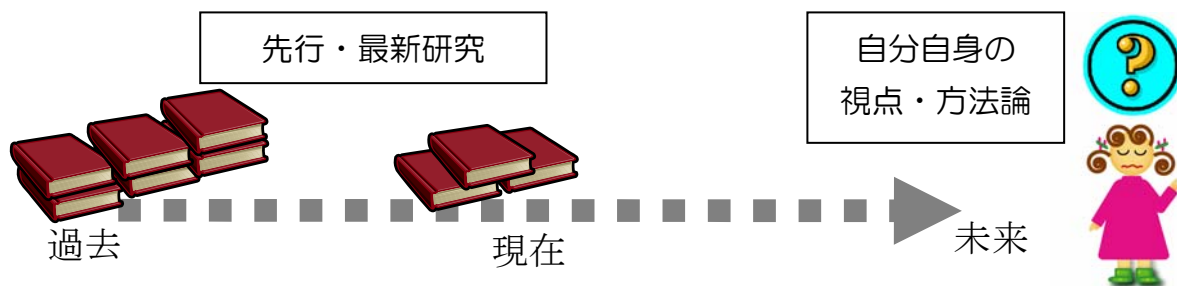
さらに、こういった資料にはほとんどの場合、参考文献や出典が掲載されているので、次のプロセスにあたる先行研究を調べる端緒としても使えます。

また、テーマによっては領域が複数にまたがるものもありますから、考え得る関連分野の資料を横断的に調べることも大切です。 2章参照

(3) Process3 先行・最新の研究動向を調べる

基本的な情報を調べたら、次は、そのテーマについてどのような研究がなされているのか、現状の理論・定義に至るまでの過程や、現在の議論を調べて、論点や方法論を整理します。この作業は自分自身の立論をしていく上で大変重要です。

自分の持っている視点が、過去や現在の議論に既に表現されているかどうかを確認したり、議論の過程や根拠そのものに疑問点を見つけるなどの作業を通じて、自分自身の論点を定め、研究の方向性を具体化していくことになります。



図表 1-2 先行研究から自分自身の視点へ

また、どんな資料を使って、どのように論証していくのかという方法論を学ぶことができます。誰でも研究を始めたばかりの時点では、何をどのようにしたらよいのかは手探りの状態です。テーマ毎に論証の方法は千差万別であるので、大学の授業では、典型的な方法の紹介に絞らざるを得ません。先行の研究を読むことによって、自分自身で方法を学んでいくことができます。

さらに、どの分野でも、エポックメイキングとなった有名な研究があります。たとえ自分のテーマに直結しなかったとしても、そのような著名な研究からは、研究の基底となる概念形成の部分から論述そのものまで、学ぶことが非常に多くあります。先人の研究に学びながら、自分自身の思考を深めて行きましょう。

さて、先行であっても最新であっても、研究の動向を調べるには、まず各テーマについて書かれた**学術論文**および専門の**研究書（専門書）**を探るのが一般的です。これは、研究の結果（成果）が公表される時、学術論文や研究書（専門書）という形を取るからです。それぞれの特徴は次の通りです。なお、探索方法はそれぞれ異なりますが、その違いは『基本編』で既に学習済みなので、次節で簡単に触れるに留めます。

■ 学術論文

大きなテーマというよりは、絞り込んだテーマについて研究した成果を随時公表したもので、通常は専門の学術雑誌に掲載されます。学術雑誌は、専門の出版社、また学会や研究機関などが編集主体となって、多い場合は毎月、少ない場合は年 1 回程度発行され、その時々最新の研究成果が掲載されます。

例) 野家啓一「『全体主義』の誘惑に抗して(自然化された認識論)」、
『科学哲学』25号(1992年)、早稲田大学出版部、p53～68

■ 研究書（専門書）

あるテーマについての研究成果をまとめ上げたもので、単行本として刊行されます。雑誌論文に比べて速報性は劣りますが、一つの大きなテーマについての総合的な論述となっており、その著者の考え方を通して知ることができます。また、論文集と言われる、既発表の論文を集めたり、数人の著者が書いた論文を集めて刊行されるタイプの研究書もあります。

例) 野家啓一『科学の解釈学』新曜社、1993（346p）

(4) Process 4 原資料を調査・分析する

この章の初めに、「何によって論証するのか？」という疑問を提起しましたが、**原資料**こそが、人文社会科学系において最も立論の根拠となるものです。過去と現在の議論の状況を踏まえて原資料を読み込み、分析することによって論を展開していきます。人文社会科学系の原資料は非常に幅広く、**埋蔵資料・絵画・手稿・書簡・政府の公文書や公式発表情報・社会調査結果・公表統計・出版されている文学作品・新聞・映像等々**、多岐にわたります。人文社会科学系には実験はないように書きましたが、心理学や行動科学の分野などでは実験もあります。

研究のプロセスとしては4番目に配置してありますが、この段階こそが研究の中心となります。本書では、原資料の探索について3章の**原資料を探す**で説明します。

(5) Process 5 論のまとめと公表

これまでの研究の結果をまとめ、論文を投稿して雑誌に掲載されたり、学会で発表したり、単行書として刊行することで、研究内容を公表します。このように公表された研究成果の情報は、まずは関連分野の研究者の間で共有されます。さらに、文献情報データベースやウェブサイトの情報集、または図書館に所蔵されてオンライン目録に登録されるなどによって蓄積されることで、広く他の研究者から参照されるようになり、研究の進展に寄与していきます。

1.1.2 人文社会科学系における情報探索の特徴

さて、ここまで研究のプロセスとそれに関わる情報探索について概観してきましたが、ここで人文社会科学系の情報探索の特徴をまとめます。

■ 資料・情報は研究の根幹

人文社会科学系の研究においては、資料や情報こそが研究の根幹となるものです。情報探索は深く研究の内容に関わるものなので、自分の研究にどんな資料や情報が必要なのかを確認し、それらを適切かつ効率的に探索する方法を見つけることが大切です。

■ 過去の資料・情報の重要性

実験を主体とし、そのために最新の情報が最も重要となる理系の研究とは異

なり、人文社会科学系の研究では、先行の論証の上に自らの論証を積み重ねていくものであるため、過去の研究の探索は非常に大切な作業となります。また、研究の性格上、原資料そのものが古いものである場合が非常に多くなります。総じて人文社会科学系の研究では、先行研究も含めて古い時代の資料・情報がよく使われます。

■ 多種多様な原資料

また大きな特徴として挙げられるのは、Process 4で使用する原資料の種類
の幅広さです。その分情報探索の方法も画一的な方法ではありえません。研
究内容が異なれば、探索の方法も自ずと異なってきます。



1.2 情報探索の手法

1.2.1 情報探索の基礎の復習

さて、研究プロセスと資料・情報の重要性がわかったところで、次は、各プロセスで使用する資料・情報をどのように見つけ、入手するか、という問題が出てきます。探索の基礎的な手法や知識については、既に『基本編』で紹介していますので、ここでは簡単に復習します。より専門的な探索方法については2章以降で解説していきます。

(1) 探索の対象と探索ツール

探す対象が何であるのかによって探索ツールは異なります。大きくは下表のように、雑誌論文と図書や雑誌という刊行物そのものの2種類で異なることを覚えておくと、情報探索がわかりやすくなります。また、インターネットのサーチエンジンは、探索ツールとしての優先順位は低くなります。一見便利なようですが、何でも検索の対象となるので、二次情報データベースや図書館のオンライン目録（『基本編』参照）などの信頼のおけるデータを収録しているツールとは、自ずと異なった使い方を心がける必要があります。

探索の対象	代表的な探索ツール	探索できる主な内容
論文	二次情報データベース	どんな論文があるのか
図書や雑誌などの刊行物	オンライン目録やカード目録などの蔵書検索ツール	どんな資料（刊行物）がその機関にあるのか どこに資料（刊行物）があるのか

図表 1-3 探索の対象と探索ツール



この2種類のツールを使った情報探索の例を単純な図式にすると、次のようになります。

● **どんな論文があるのか**

二次情報データベース『MAGAZINE PLUS』で、どんな論文があるのかを探す。

野家啓一著「『全体主義』の誘惑に抗して(自然化された認識論)」という論文が、『科学哲学』の1992年第25号に掲載されていることがわかった

● **どこに『科学哲学』の1992年第25号はあるのか**

『Online Catalog』（東北大学附属図書館オンライン目録）で、東北大学内にあるかどうかを探す。

『科学哲学』の1992年第25号は東北大に所蔵されていないことがわかった

● **『科学哲学』の1992年第25号の入手**

図書館の相互利用サービスを使って他機関からコピーを入手する。

図表 1-4 情報探索の単純な例

(2) 探索できる範囲

ツールによって収録されている分野などの情報の範囲が違うので、どの範囲までの探索が可能なのか、ということ意識して使う必要があります。2.1.1参照

■ 収録年代による範囲の例

『Online Catalog』（東北大学附属図書館オンライン目録）では、東北大学に1987年以降に受け入れた日本語資料は必ず検索できるが、それ以前に受け入れた日本語資料については検索できないものもある。

(3) 探索の出発点

探索の出発点は、①ある資料の参考文献や引用文献を起点にして、芋づる式に辿っていく場合と、②収録分野の広いデータベースを検索して、関連の資料をピックアップする場合があります。いずれからはじめても問題はありません。①の場合は、議論の過程や、ある一定の研究範囲を追うのに適しています。②の場合は、資料同士の関連性とは別に、網羅的に多くの情報を得たい時に適しています。自分の探索の必要に応じて使い分けたり組み合わせたりしましょう。

1.2.2 専門的な資料の探索

人文社会科学系で使用する原資料には様々なものがあり（1.1.1.(4)参照）、その探索の方法は、個々の資料によって全く異なるといってもいいでしょう。また、未発見の資料を求めて国内のみならず国外で調査をすることも決して珍しくはありません。既に述べた通り、こういった探索手法を全て網羅することはできないので、本書では、人文社会科学系でも代表的な専門的資料の探索の方法について紹介していきます。説明は3章を参照して下さい。

1.2.3 情報の信頼性

立論に使用した資料や情報の信頼性に問題があれば、議論が根底から覆ることになります。自分の使う資料や情報の出所来歴や性質については、良く理解した上で使用しましょう。

特に、出所の曖昧な情報が氾濫しているインターネット上の情報の取り扱いには

注意を要します。インターネット上で得た情報は常に、「誰が」「いつ」公表したものなのか、また内容が固定的なものかどうか、といったことを意識的に確認するようにしましょう。

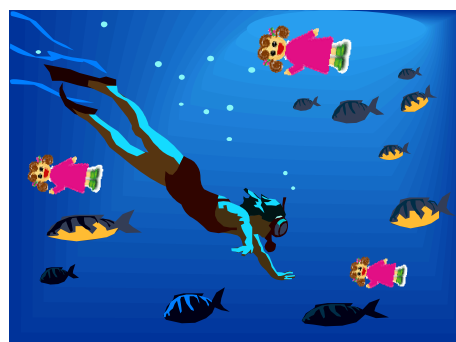
1.2.4 より深く広く探索をするために

図書館には、形態や分野も様々な探索ツールが収集されていますから、図書館を活用することで効率的に調べていくことができます。また、ツールだけではなく、図書館には資料探索について援助するスタッフがあります。調べ方について、このようなスタッフにどんどん尋ねるのも効率よく調べるコツです。図書館を徹底的に使いこなして必要な資料や情報を集めて下さい。

人文社会科学系の資料を調べるための探索ツールは、研究の特性上、理系のようにはあまり統一・体系化されておらず、分野により様々です。専門領域それぞれの基本的な、または特有の探索ツールや学術雑誌、ウェブサイトなどがあります。それが何であるのかは、資料・情報を探索しているうちに自然とわかることもあります。が、それでは効率が悪く、また、特定の人しか知り得ない情報もあるので、重要な資料・情報が漏れてしまう可能性もあります。自分の属する研究室の教員や先輩と交流することはもちろん、研究テーマに関連する学会に参加するなど、研究コミュニティに積極的に参加し、人的なネットワークからもどんどん情報を得ましょう。最近インターネット上のコミュニケーションツールとして定着したブログも、研究コミュニティへの参加の一つの入り口として活用できるでしょう。

また、分野の名称が異なっても研究領域が近似していることがあります。他分野の研究情報にも広く目を向けることが大切です。

ここまでで、人文社会科学系の情報探索の入り口にまで案内してきました。以降の2章および3章では、冒頭で紹介した研究のプロセスごとに、具体的にツールを挙げながら情報探索の方法を紹介していきます。また、研究の公表については付録1、2で簡単に紹介します。





みみふくろ 書評の利用

書評とは

主として新刊本の内容を批評しながら紹介するものです。実際に入手する前の参考となります。よく皆さんが目にするのは、新聞や週刊誌に掲載されている書評欄であると思いますが、論文が掲載される学術雑誌にも、よくその関連の新刊本についての書評が掲載されています。研究に関連する雑誌を見つけたら、その雑誌に掲載されている書評にも目を通すようにしましょう。

書評の専門誌

次のような書評専門誌もあります。図書館本館で利用できるものもあるので利用してみてください。

- 国内：『週間読書人』*・『出版ニュース』・『書評年報』など
- 海外：『T・L・S, the Times literary supplement』*・『Book review digest』*など

「*」は図書館本館所蔵。バックナンバーは本館 2 号館所蔵。最新号は本館カウンターで問い合わせること。

書評の探し方

ある特定の本の書評を探す場合は、例えば次のデータベースが便利です。この場合の著者は「評者」なので、著者名ではなく、書名で検索するのがコツです。また他のデータベースでも探すデータのタイプを書評に指定できるものもあるので試してみてください。

- 国内：『雑誌記事索引』（国立国会図書館） 2.2.2 参照
「各種コード」を「記事種別」にして「コード」は「書評」を設定して検索する。
- 海外：『Periodicals Index Online』（図書館のウェブサイトより利用可） 2.2.3(3)参照
「Article Search」の画面で、右側の「Search in」を「book Reviews」のみにチェックを入れて検索する。